

知と技のコラボ



医療などのライフサイエンスやエネルギー、エレクトロニクス分野で、連携相手を探す関西の中企業の動きが活発化している。新規参入や販路開拓などが目的で、この動きに近畿経済産業局も着目し、マッチングイベントやセミナーなどへの支援やプロジェクト間連携などを通じて中小企業の挑戦を後押ししている。

近畿経産局が挑戦後押し



近畿経済産業局の支援で開かれたバイオ分野のマッチングイベントの様子。企業、大学などの連携を支援している
=大阪府豊中市

振興財団が神戸市、京都市で開催する「医工連携人材育成セミナー」は、医療機器開発と法規制、応用脳科学の産業化、人工臓器、粒子線治療装置など22の講座で構成。講師は大学病院の医師、研究者だけでなく、他分野から医療産業に参入した企業の経営者まで多岐にわたる。

同セミナーを含め近畿経済産業局は、2月5日にNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議が豊中市内で開催する「関西バイオビジネスマッチング」など8事業(13イベント)を平成25年度に支援してきた。

バイオ・医療機器技術振興課の高木英彦課長は「歯をくいしばって技術を磨き、販路を開拓

技術の指向性を「極小・精緻」に特化し、3年前には外径0・5ミ、内径0・3ミというチタンパイプの開発に成功。医療で使うマイクロ鉗子やカテーテル治療で用いられるステント

などのほか釣り具用の部品、メタルフレームなど幅広い用途を保持している。

大正6(1917)年創業の部品加工会社、二九精密機械工業(京都市南区)は軽量で、高い耐腐食性と復原性を兼ね備えた(ペータ)チタンと呼ばれるチタン合金に着目。その加工技術を進化させることで、ライフサイエンス分野で高い競争力を保持している。

関西には既存事業から新分野への展開を目指し、独自の技術を磨き続ける中小企業が数多く存在する。

独自技術に磨き



自社開発した医療関係の機器や部品の前で、成長分野への意欲を語る二九精密機械工業の二九良三社長=京都市南区

中小、成長分野で連携加速

しようとしている中小企業をできる限りサポートしたい。セミナーの内容は、企業のニーズをくみ取りながら、支援機関とも連携して進化させていきたい」と話す。

次世代エレクトロニクス

また、近畿経産局は生活支援ロボットなどの次世代エレクトロニクス、スマートハウスといったエネルギー・システム分野で、大阪商工会議所、京都リサーチパーク、大阪市都市型産業振興センターなどを支援している。

ライフサイエンス

医療機器、再生医療、医薬品・機能性食品、ヘルスケアを包括するライフサイエンスは、関西が他地域に比べて高い優位性を持つ分野だ。

2~3月にかけて神戸市産業振興財団が神戸市、京都市で開催する「医工連携人材育成セミナー」は、医療機器開発と法規制、応用脳科学の産業化、人工臓器、粒子線治療装置など22の講座で構成。講師は大学病院の医師、研究者だけでなく、他分野から医療産業に参入した企業の経営者まで多岐にわたる。

同セミナーを含め近畿経済産業局は、2月5日にNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議が豊中市内で開催する「関

西バイオビジネスマッチング」など8事業(13イベント)を平成25年度に支援してきた。

バイオ・医療機器技術振興課の高木英彦課長は「歯をくいしばって技術を磨き、販路を開拓

寄せてている。

次世代産業課の西野聰課長は

「関西に集積する企業や大学が

保有する技術には大きな可能性がある。うまく融合できれば、

時代を先導する技術革新が生み出せるのではないか」と期待を寄せている。